

お台場旧防波堤（鳥の島 2 島）における鳥類のモニタリング調査 春季調査（4 月）報告書

平成 28 年 6 月 お台場海づくり協議会

1. 調査目的

お台場海浜公園内防波堤（通称鳥の島）における鳥類の生息環境の保全について検討するために、当地における鳥類の利用状況の現況を把握するとともに、今後の経年変化を把握するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

お台場海浜公園内堤防（通称鳥の島） 2 島及び周辺水域（周辺 50m 程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表 1 に示す。

表 1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
平成 28 年 4 月 18 日（月）	8 : 00～14 : 00	晴

4. 調査方法

各調査項目において、倍率 8～10 倍程度の双眼鏡や倍率 20～60 倍程度の望遠鏡などを必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、上陸後に実施する（2）～（4）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2 島に調査員を 1 名ずつ配置し、2 島同時に実施した。調査地点を図 1 に示す。

（1）船上センサス

鳥の島の 2 島の 50m 程度沖を船舶により定速で周回しながら、鳥の島及び周辺を観察し、目視または鳴き声などで確認した鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。繁殖期には、特にさえずりや餌運びなどの繁殖行動に注意した。

（2）ラインセンサス

各島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速 1～2 km 程度の速度で歩きながら目視または鳴き声などで確認した鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。繁殖期には、特にさえずりや餌運びなどの繁殖行動に注意した。センサスルートは各島に 1 本を設定し、観察範囲は片側 50m（両側 100m）とした。

(3) 定点観察調査

2島の各2点に眺望の卓越した定点を設定し、目視または鳴き声などで確認した鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。繁殖期には、特にさえずりや餌運びなどの繁殖行動に注意した。観察半径は50m程度、調査時間は各30分間とした。

(4) 任意観察調査

鳥の島の2島を任意に踏査し、目視または鳴き声などで確認した鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。繁殖期には、特にさえずりや餌運びなどの繁殖行動に注意した。



写真1 各調査手法における調査風景



図1 調査地点

5. 調査結果

- 現地調査の結果、夏季に 19 種、秋季に 22 種、冬季に 34 種、春季に 29 種、合計 10 目 24 科 47 種の鳥類を確認した（表 2）。
- 春季の確認種の多くは他の季節同様、水域やその周辺に生息する鳥類であり、17 種を確認した。主な確認種は、カルガモやカンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、オオバン、コチドリ、イソシギ、ユリカモメ、ハクセキレイなどであった。また、島内には小規模な樹林環境や草地環境が見られ、冬季には森林やその周辺に生息する鳥類が 13 種と多かったものの、春季は夏季及び秋季同様に少なく、ヒヨドリやメジロ、ツグミ、アオジの 4 種であった。そのほか、猛禽類であるトビ、ハイタカ、チョウゲンボウ、都市部に普通に生息するキジバトやハシブトガラス、ツバメ、ムクドリ、スズメも確認した。
- 春季の確認種のうち、カルガモやキジバト、カワウ、ハシブトガラス、スズメなどの留鳥（ある地域で 1 年中見られる種）の種数が最も多かったが、スズガモやカン

ムリカイツブリ、ユリカモメ、ツグミ、アオジなどの冬鳥の種数も比較的多かった。夏鳥はコチドリ、ツバメの2種を確認した。

- 夏季、秋季及び春季の確認個体数が最も多かった種はカワウであったが、冬季にはスズメが最も多かった（表3、表4、表5）。
- カワウは鳥の島に周年生息し、島内で繁殖を確認した種もカワウのみであった。春季には巣材運びや抱卵、育雛などの繁殖活動を行う多数のカワウを観察したが、巣立った幼鳥はまだ少なく、今後さらに巣立つと考えられる。また、カワウの巣を鳥の島北側で94巣、南側で113巣（古巣を含む）確認した。鳥の島は水域に囲まれており、まとまった常緑広葉樹の樹林が存在するため、カワウの営巣に適した環境と考えられる。また、カワウの繁殖期は長く、コロニー（集団営巣地）を形成するため、とくに春季から秋季にかけて個体数が多い。
- スズメは冬季に増加し、島内のヨシ等の高茎草地内で採餌する個体を多数確認したことから、良好な採食場所になっていると考えられる。
- 重要種は合計18種を確認し、夏季にはダイサギやコサギ、イソシギ、コアジサシの4種、秋季にはササゴイやダイサギ、コサギ、イソシギ、ハチクマ、トビ、チョウゲンボウ、イソヒヨドリの8種、冬季にはスズガモやウミアイサ、カンムリカイツブリ、オオバン、イソシギ、ミサゴ、オオタカ、ノスリ、イソヒヨドリの9種、春季にはスズガモやカンムリカイツブリ、ダイサギ、コサギ、オオバン、コチドリ、イソシギ、トビ、ハイタカ、チョウゲンボウの10種を確認した（表2）。春季に確認した重要種のうち、スズガモ、カンムリカイツブリ、ダイサギ、コサギ、オオバンは鳥の島周辺の水域で確認した。コチドリ及びイソシギは主に海辺の岩場や消波ブロック、砂浜で採餌、休息する個体を、ハイタカは高茎草地上空を低く飛翔し、落葉樹にとまる個体を確認した。また、トビ及びチョウゲンボウは上空を通過する個体を確認した。

6. 今後について

- 島内の面積は狭いものの、鳥類の種数は比較的多かった。これは、島の周囲の水域環境のほか、磯や砂浜、樹林、草地といった様々な環境が存在していたからと考えられ、それぞれの環境を生息地とする鳥類が確認されている。今後、植樹したサクラ類が成長すれば、樹林性の鳥類がやや増加する可能性がある。一方、草地面積は減少するため、それにともないウグイスやホオジロ類などの草地を利用する種が減少する可能性がある。鳥類相や個体数の増減を今後も記録することが望ましい。
- 鳥の島はカワウの営巣地となっているが、カワウの大量の糞で樹木が枯れてしまうことがあり、将来的に鳥の島の樹林が枯れてしまう可能性がある。

表 2 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	調査時期				重要種選定基準			
				夏季 6月	秋季 9月	冬季 1月	春季 4月	①	②	③	④
1	カモ	カモ	マガモ				○				
2			カルガモ	○	○	○	○				
3			スズガモ			○	○				留
4			ウミアイサ			○					DD
5	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ			○	○				留
6			ハジロカイツブリ			○					
7	ハト	ハト	キジバト		○	○	○				
8	カツオドリ	ウ	カワウ	○	○	○	○				
9	ペリカン	サギ	ササゴイ		○						CR
10			アオサギ	○	○	○	○				
11			ダイサギ	○	○		○				VU
12			コサギ	○	○		○				VU
13	ツル	クイナ	オオバン			○	○				VU
14	チドリ	チドリ	コチドリ				○				VU
15		シギ	イソシギ	○	○	○	○				VU
16		カモメ	ユリカモメ			○	○				
17			ウミネコ	○	○	○	○				
18			カモメ				○				
19			セグロカモメ			○	○				
20			オオセグロカモメ	○	○	○	○				
21			コアジサシ	○					際	VU	EN
22	タカ	ミサゴ	ミサゴ			○				NT	EN
23		タカ	ハチクマ		○					NT	
24			トビ		○		○				NT
25			ハイタカ				○			NT	EN
26			オオタカ			○			内	NT	CR
27			ノスリ			○					EN
28	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ		○		○				EN
29	スズメ	カラス	ハシブトガラス	○	○	○	○				
30		シジュウカラ	シジュウカラ	○	○	○					
31		ツバメ	ツバメ	○			○				
32		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○	○				
33		ウグイス	ウグイス			○					
34		メジロ	メジロ	○		○	○				
35		ムクドリ	ムクドリ	○	○	○	○				
36		ヒタキ	シロハラ			○					
37			アカハラ			○					
38			ツグミ			○	○				
39			ジョウビタキ			○					
40			イソヒヨドリ		○	○					DD
41			キビタキ		○						
42		スズメ	スズメ	○	○	○	○				
43		セキレイ	ハクセキレイ	○	○	○	○				
44		アトリ	カワラヒワ	○		○					
45		ホオジロ	ホオジロ			○					
46			アオジ			○	○				
47	ハト	ハト	ドバト	○	○	○					
計	10 目	24 科	47 種	19 種	22 種	34 種	29 種	0 種	2 種	5 種	17 種

注1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。

注2. 重要種選定基準は以下の通りである。

① 文化財保護法(昭和25年、法律第214号)

- 天:天然記念物 特:特別天然記念物
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年、法律第75号;平成23年改訂)
内:国内希少野生動物 際:国際希少野生動物
- ③「第4次レッドリストの公表について」(平成24年、環境省)における掲載種
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類
NT:準絶滅危惧種 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
- ④「レッドデータブック東京2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部解説版)～」
(平成25年、東京都)における区部の掲載種
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類
NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 留:留意種

注3. ()内の種は外来種を示す。

表3 船上センサス結果

No.	種名	船上センサス												合計
		夏季(6月)			秋季(9月)			冬季(1月)			春季(4月)			
		北側	南側	小計	北側	南側	小計	北側	南側	小計	北側	南側	小計	
1	カルガモ	1	3	4	0	0	0	6	0	6	3	6	9	19
2	スズガモ	0	0	0	0	0	0	0	130	130	0	28	28	158
3	ウミアイサ	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
4	カンムリカイツブリ	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	0	2	4
5	キジバト	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	2
6	カワウ	160	76	236	145	177	322	49	22	71	178	105	283	912
7	アオサギ	19	15	34	7	5	12	0	0	0	4	0	4	50
8	ダイサギ	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
9	オオバン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3
10	イソシギ	1	0	1	1	1	2	1	3	4	0	1	1	8
11	ユリカモメ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
12	ウミネコ	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
13	セグロカモメ	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	2
14	オオセグロカモメ	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	2
15	コアジサシ	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
16	ハイタカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
17	オオタカ	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1
18	ハシブトガラス	2	2	4	3	2	5	2	0	2	2	0	2	13
19	シジュウカラ	1	0	1	2	0	2	0	0	0	0	0	0	3
20	ヒヨドリ	0	1	1	0	0	0	5	4	9	0	1	1	11
21	ムクドリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3
22	ツグミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
23	スズメ	5	1	6	2	0	2	13	301	314	0	0	0	322
24	ハクセキレイ	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	0	0	3
計	24 種	194	98	292	162	186	348	81	465	546	194	146	340	1,526
		9 種	6 種	10 種	8 種	5 種	8 種	11 種	9 種	13 種	8 種	8 種	14 種	24 種

注1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。

表 4 (1) ラインセンサス結果 (1/2)

No.	種名	調査地点									
		L1									
		夏季(6月)		秋季(9月)		冬季(1月)		春季(4月)		合計	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	2	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%
2	キジバト	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%
3	カワウ	113	81.9%	0	0.0%	34	6.6%	130	92.9%	277	32.7%
4	アオサギ	5	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.4%	7	0.8%
5	セグロカモメ	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%
6	ミサゴ	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%
7	ハシブトガラス	2	1.4%	0	0.0%	2	0.4%	2	1.4%	6	0.7%
8	シジュウカラ	0	0.0%	2	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%
9	ヒヨドリ	0	0.0%	2	3.6%	10	1.9%	1	0.7%	13	1.5%
10	ムクドリ	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
11	ツグミ	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	2	1.4%	3	0.4%
12	ジョウビタキ	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%
13	キビタキ	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
14	スズメ	16	11.6%	49	89.1%	460	89.3%	3	2.1%	528	62.3%
15	ホオジロ	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%
16	アオジ	0	0.0%	0	0.0%	3	0.6%	0	0.0%	3	0.4%
合計		138	100.0%	55	100.0%	515	100.0%	140	100.0%	848	100.0%
		5 種		5 種		11 種		6 種		16 種	

注1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。

表 4 (2) ラインセンサス結果 (2/2)

No.	種名	調査地点									
		L2									
		夏季(6月)		秋季(9月)		冬季(1月)		春季(4月)		合計	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	2	6.1%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.5%	6	1.3%
2	キジバト	0	0.0%	2	7.4%	0	0.0%	1	0.6%	3	0.6%
3	カワウ	25	75.8%	8	29.6%	23	9.2%	129	79.1%	185	39.1%
4	アオサギ	0	0.0%	1	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
5	オオバン	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.8%	3	0.6%
6	イソシギ	0	0.0%	1	3.7%	2	0.8%	2	1.2%	5	1.1%
7	ユリカモメ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	12	7.4%	12	2.5%
8	ハシブトガラス	0	0.0%	4	14.8%	1	0.4%	1	0.6%	6	1.3%
9	シジュウカラ	1	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
10	ヒヨドリ	0	0.0%	0	0.0%	6	2.4%	5	3.1%	11	2.3%
11	ウグイス	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	1	0.2%
12	メジロ	0	0.0%	0	0.0%	2	0.8%	0	0.0%	2	0.4%
13	ツグミ	0	0.0%	0	0.0%	2	0.8%	4	2.5%	6	1.3%
14	イソヒヨドリ	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	1	0.2%
15	スズメ	5	15.2%	10	37.0%	200	80.0%	1	0.6%	216	45.7%
16	ハクセキレイ	0	0.0%	1	3.7%	2	0.8%	0	0.0%	3	0.6%
17	カワラヒワ	0	0.0%	0	0.0%	7	2.8%	0	0.0%	7	1.5%
18	アオジ	0	0.0%	0	0.0%	3	1.2%	1	0.6%	4	0.8%
合計		33	100.0%	27	100.0%	250	100.0%	163	100.0%	473	100.0%
		4 種		7 種		12 種		11 種		18 種	

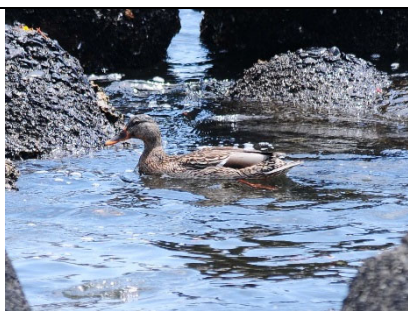
注1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。

表 5 定点観察調査結果

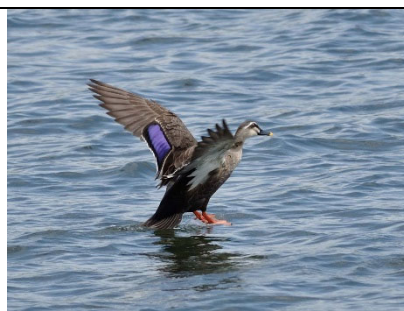
No.	種名	調査地点																合計
		夏季(6月)				秋季(9月)				冬季(1月)				春季(4月)				
		P1	P2	P3	P4	P1	P2	P3	P4	P1	P2	P3	P4	P1	P2	P3	P4	
1	カルガモ	1	2	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	1	5	5	3	20
2	スズガモ	0	0	0	0	0	0	0	0	12	1	0	0	3	0	0	0	16
3	カンムリカイツブリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	3
4	キジバト	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	0	0	1	0	1	8
5	カワウ	26	25	40	71	1	47	0	26	16	3	4	23	38	18	9	44	391
6	アオサギ	1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	8
7	ダイサギ	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
8	コサギ	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	6
9	オオバン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
10	イソシギ	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	1	0	1	0	2	3	11
11	ユリカモメ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	3	29	5	41
12	ウミネコ	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
13	セグロカモメ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	1	5
14	オオセグロカモメ	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4
15	コアジサシ	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
16	チョウゲンボウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
17	ハシトガラス	0	2	0	0	3	1	3	1	2	1	1	0	2	1	0	0	17
18	シジュウカラ	0	1	1	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
19	ツバメ	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
20	ヒヨドリ	0	0	0	0	0	4	2	0	9	11	9	10	0	1	4	0	50
21	ウグイス	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
22	メジロ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	2	2	0	2	2	0	11
23	ムクドリ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3
24	ツグミ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	4
25	ジョウビタキ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
26	イソヒヨドリ	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
27	スズメ	6	6	8	3	22	0	2	3	200	187	110	0	3	0	0	0	550
28	ハクセキレイ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	1	0	6
29	カワラヒワ	2	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	0	0	8
30	ホオジロ	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
31	アオジ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	1	2	0	7
合計		38	39	56	89	28	59	11	32	249	217	136	44	51	33	57	67	1,206
		6種	8種	7種	11種	4種	8種	5種	4種	12種	14種	11種	9種	9種	9種	11種	10種	31種

注1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。

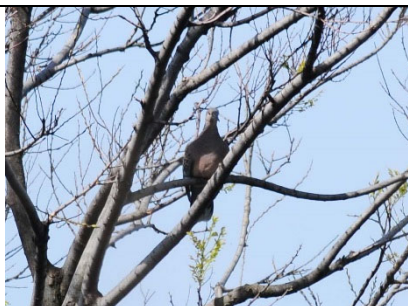
注2. 表内の数値は個体数を示す。



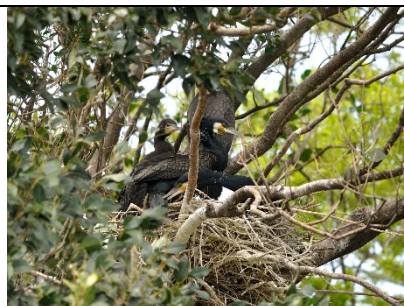
マガモ



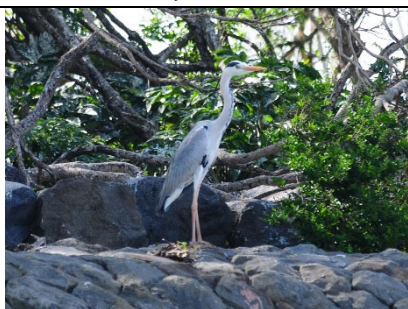
カルガモ



キジバト



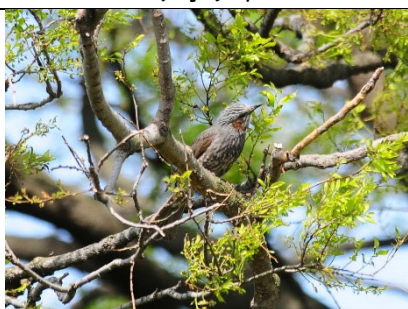
カワウ



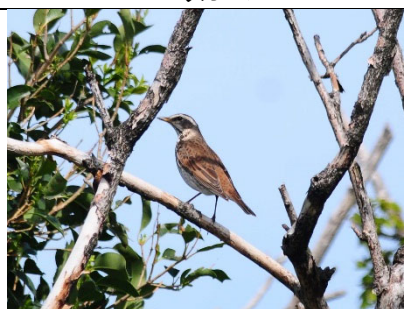
アオサギ



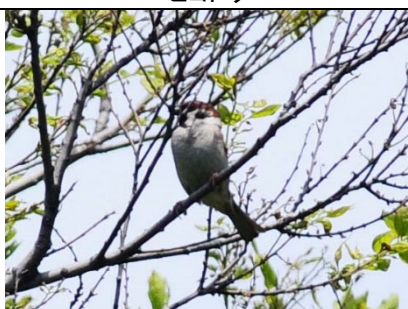
ユリカモメ



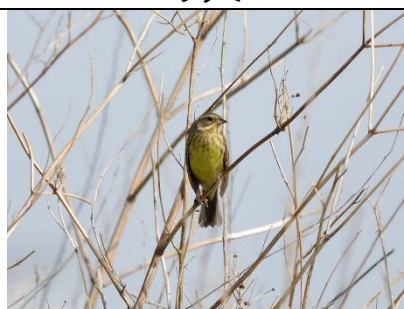
ヒヨドリ



ツグミ



スズメ



アオジ

写真2 鳥の島で確認した主な鳥類

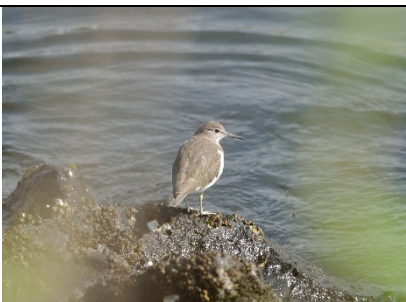
 カンムリカイツブリ	 コサギ
 オオバン	 コチドリ
 イソシギ	 トビ
 ハイタカ	 チョウゲンボウ

写真3 鳥の島で確認した鳥類（重要種）